

**編集後記：**皆様は「気象ビジネス推進コンソーシアム」という名を聞かれたことはありますか。これは、IoT や AI 技術を駆使して産業界における気象データの活用を推進し、新たな産業活動を創出・活性化する目的で昨年3月に設立されたものです。

その第2回「気象ビジネスフォーラム」が先日開催され、私も参加してきました。講演やパネルディスカッションに加えて、展示ブースも設けられており、気象会社だけでなくコンピュータや情報処理関連の会社、さらには大学も出展していました。気象データが電力需給やコンビニなどで使われていることは承知していましたが、私の想像以上に利用が広がっていることに驚かされました。

例えば、「AI タクシー」では、人の流れやタクシーの運行データに加えて気象データを活用することで、効率的なタクシーの配車を実現するシステムで、近い

うちに実用化されるとのことです。また、外国人観光客に無料スマホ（SIM カード）を提供し、ホテルなどの宿泊施設や観光ルートの案内と気象データを組み合わせるサービスで、すでに実用化されています。さらに、スマートフォン向けのゲームアプリの中に、いま実際に起こっている天気を表示させて、ゲームにより現実感を持たせる取り組みも紹介されていました。

気象学会は、会員の活躍の場を広げるなど、新たな学会活動のヒントになればと考えて、コンソーシアム設立当初からそのメンバーに名を連ねています。ただ、まだ具体的に何かに取り組むというところにはいたっていません。もし興味がありましたら、こうした活動に参加されたらいかがでしょうか。今後、「天気」でも気象ビジネスコンソーシアムの活動を紹介していきたいと考えています。

(瀬上哲秀)